

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機設計及び工事計画）【335】
2. 日時：令和4年12月12日 13時30分～17時20分
3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

千明主任安全審査官、津金主任安全審査官、中村主任安全審査官、
服部(正)主任安全審査官※、服部(靖)安全審査専門職、植木技術参与、
谷口技術参与、山浦技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

小林技術計画専門職、堀野技術参与※

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 部長（電源建築） 他3名

電源事業本部 耐震設計建築グループ マネージャー 他5名※

北海道電力株式会社

原子力事業統括部 泊発電所 機械保修課 総括主任※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 設備技術室 課長代理※

5. 要旨

(1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、耐震性に関する説明書（設計用床応答スペクトルの作成方針等）について、令和4年12月6日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【弾性設計用地震動 S_d-1 及び基準地震動 S_1 による機器・配管系の耐震評価結果の比較】

- 基準地震動 S_1 と弾性設計用地震動 S_d-1 の評価結果の比較検討を行う背景について、呼び込みしている関連図書等の内容を踏まえて説明すること。
- 建設時工認と今回工認の耐震評価手法の違いについて、建物の地震応答解析も含めて機器・配管系の耐震評価への影響の観点から比較し差異を明確にした上で説明すること。
- 今回工認の耐震評価において、建設時工認の耐震計算書で用いている

質量と異なる質量を適用している設備（原子炉補機冷却ポンプ等）を網羅的に抽出し説明すること。

（3）中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

なお、本ヒアリングについては、事業者から一部対面での開催の希望があったため、「まん延防止等重点措置の解除を踏まえた原子力規制委員会の対応」（令和4年3月23日 第73回原子力規制委員会 配布資料2）を踏まえ、一部対面で実施した。

6. その他

提出資料：

なし